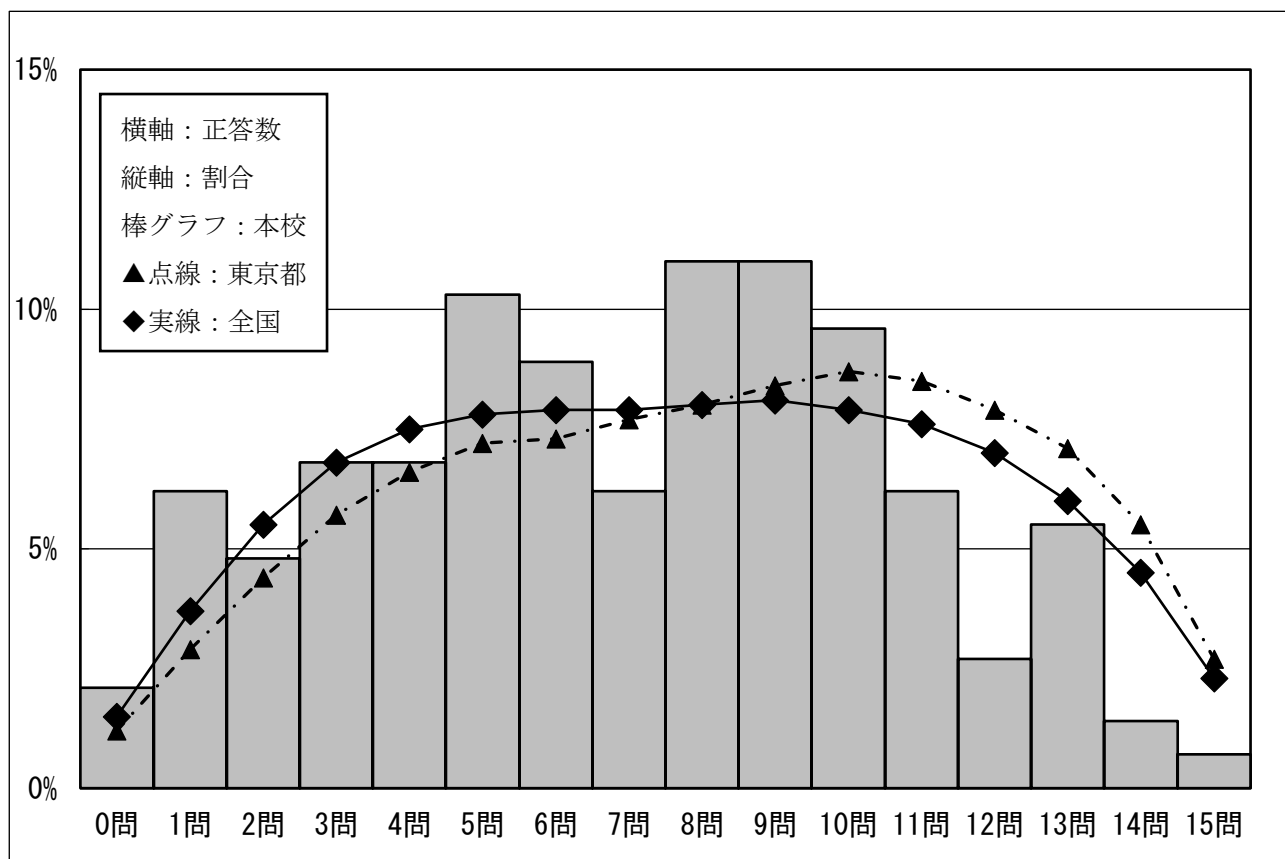


令和5年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

数学



学習指導要領の4領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」）の平均正答率において、「数と式」、「データの活用」の領域すべてにおいて全国平均、東京都平均ともに下回っている。

「数と式」の領域では、「自然数の意味を理解しているか」「数と整式の乗法の基本的な計算」など問題を考察する問題を解くための基本的な知識の正答率も平均より下回っている。「データの活用」の領域では、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」においては、平均より若干低いだけではあるが、「四分位範囲の意味を理解しているか」を問う問題の平均は10%近く平均を下回る。

また、「図形」の領域では、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を証明する問題」において、無答率が低くなっている。今後の図形指導においては、基本的な証明の手順について再確認するとともに、問題演習にも取り組ませていく。

その分野にも共通していることは、基本的な知識の習熟が不十分であると結果から分析することができる。まずは、基本的な内容の習熟を授業で図ることができるよう、授業内の演習の時間を増加させたりするなどしていきたい。習熟度別の少人数授業を行っているので、習熟の高い生徒に対してもわかつたつもりではなく、成り立つことの原因を説明したりする活動を取り入れたりし、内容をしっかりと定着させることができるようにしていく。